

自宅が資格学校

1. 自宅が資格学校とは

当講座は、2015年から公開し、た当講座は、何時でも何処でも見れる「スマホ&パソコン」講座から、2018年もう一步先に進み、「**自宅が資格学校**」となる講座を追加する(2018年は1級建築士のみ対象)。

③ 他社多くの講座は、数十万円と高額なため、**無料**か、それが無理なら年会費を1ヶ月のお小遣い程度にして欲しい。

1級建築士の過去問を集め出題傾向等を分析した結果、学科試験は、過去問20年まで学習すれば合格できると結論付けた。その後、聞き取り調査に基づき、過去問20年の項目別出題問題一覧表等をまとめ、スマホ&パソコンで何時でも何処でも見れるHPを無料で公開した。その後、2級建築士、構造設計1級建築士、設備設計1級建築士の講座立上げ要望があり、2017年から組込んだ。

※4 聞き取り調査は、2014年～2015年に実行委員の部下等数百名にヒアリングを実施し確認した。

3. 構造設計1級建築士、設備設計1級建築士、2級建築士の追加

2016年には、多くの方から「2級建築士、構造設計1級建築士、設備設計1級建築士」の講座も開設して頂きたいとの意見があった。それを受け実行委員で協議した結果、2017年センターの使用許諾を受けて講座を組み込みました。この段階で研究会の目的が、最重要講座を1級建築士としつつ、全ての建築士資格を支援する講座となりました(実務10年⇒2級建築士⇒実務4年⇒1級建築士⇒実務5年⇒構造・設備設計1級建築士)。

4. 「ひと休み建築実務の話」の組み込み

研究会は、当初「建築実務の解説」をするHPを作ろうとした。しかし、聞き取り調査の結果、「建築実務の話」よりも「1級建築士の資格講座」にして欲しい要望が多数であった。実行委員からは、「約30年の実務ノウハウを何らかの形で伝えたい」となり、実務内容から1級建築士を目指すのに参考となるテーマを抽出し、「ひと休み建築実務の話」の中で紹介することとした(無料講座アップ中)。

資格は必要なものであるが、実務は一生を掛けて身に付けるべきものである。企業に長年勤めると、その企業、業界の立場を踏まえて、本来の純粋な技術をオブラートに包み、企業等を優先した情報公開となる傾向がある。ここでは、その点を白紙にして、本来の建築実務について、**純粋な技術**として解説することにした(ひと休みに一読してみてください)。

5. HPのメリットとデメリット

HPのメリットは、①スマホ&パソコンで何時でも何処でも自分のペースで見れること、②1級、2級、構造・設備1級の全ての講座が見れること、③この種の講座としては極めて安価なことである。デメリットは、①資格学校のような対話型でないこと、②講座が利益を求めた企業でないこと(専属担当者不在、迅速対応性不足)、③毎週月曜日に追加アップする手作り感を脱却できないことである。これらのメリット&デメリットを踏まえ、2018年からは、大幅なHP容量アップをして、「**自宅が資格学校**」となることを目指したHP内容にして行きたい(自宅学習でも資格学校と同等以上の内容に得られるような充実性のあるHPを目指す)。

6. おわりに

当講座を開設して4年目に入りました。当初、HP来訪者は約10名/日でしたが、現在500名/日を越えている(会員も200名越え)。多くの方からご連絡を頂く中で、「学科で2年、製図で3年学校に通い、200万円以上を掛けても合格できず、もうあきらめようとしたとき、当講座をネットで見つけて再度学科からチャレンジしようという気持ちになった」と言うメールを頂きました。当講座は、そのような方にも**再度試験にチャレンジしたい**と思えるようなHPにする。1級建築士の製図試験は、合格者の9割※5が資格学校に通学している方である(資格学校の合格率は約50%強※6)。当HPは、通学しない方も合格できるような、また通学している方も通学者の約半数が不合格となる厳しい現実があることから、通学者であっても合格の約半数に入るために当HPを利用したいと思って頂けるような講座を目指す。また、2018年からは、「自宅が資格学校」と命名し、自宅でHPを見ることで通学したと同等以上の満足感、充実感となるような資料、サービスを提供していく。

他方、研究会は利益を追求する企業ではない。実行委員5名は全員が現役サラリーマンで、資料作成は休日等に行っている。HPは皆様からの意見を取り入れ、より良い講座となるよう毎週月曜日アップしている。また、事務局は、1日1回必ずメールを見るようにしているが、メールの対応では時間を要することもあるので、ご理解下さい(電話対応はしていない)。

おわりにHPを作成してもご利用頂けないと意味がない(十分な宣伝をする費用が無い)。当初、10名/日のHP来訪者も現在は500名/日を超えてるが、毎年の受験者数に比較すると、2%程度の利用率である。このHPを見て頂いた皆様が、「**役立った**」と思われれば、是非、**口コミ**で宣伝して頂きたい。

※5 H27製図合格者3,774名、公表されたA社2,149名とB社1,145名で合格占有率87%、非公表含め約9割が資格学校と想定。

※6 2014年～2015年の数百名からの聞き取り調査を踏まえ、資格学校の合格者は約50%と想定(占有率ではない、出席率**%等の条件無しでの合格率)。

「**建築資格研究会**」実行委員